

2025年度 経営方針の達成・取組状況に対する自己評価

2026年1月20日

重点目標	内容	具体的な取組	達成・取組状況	意見を踏まえた今後の取組
1	<p>個性や能力の伸張を図る主体的・対話的な学習指導の充実</p> <p>能力・適性、興味・関心、性格等は個人により様々であり、また、知識、思考、価値観、心情、技能、行動等もそれぞれ異なっている。特に本校では、生徒の特性や希望する進路が多様化しており、生徒一人一人を尊重し、個性を生かす教育の充実を図るために、評価方法や指導体制の評価と検証を繰り返し、不断から指導方法の工夫・充実に努めている。</p>	<p>□観点別学習状況の評価の工夫改善</p> <p>□学校の将来構想を踏まえた教育課程の検討</p> <p>□改訂教務規程の理解と効果的な対応</p> <p>□通信教育の効果的な指導</p> <p>□個に応じた指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着を図る工夫 ・コース新設、習熟度別教科指導 	<p>1 通信教育、遠隔授業を可能とする教務規程の改訂を年度当初に行い、併せて今年度の入学生から単位制に移行した。</p> <p>2 新しい教育課程に基づく教育活動が3年目を迎えたことから、その評価と検証を進め、次の教育課程の検討を進めている。</p> <p>3 「思考力、判断力、表現力等」を身に付ける「深い学び」の授業を目指して外部の講師を招いて校内研修を実施した。また、授業改善に向けての重要な資料となる生徒による授業評価の実施に際して、その意義やその評価項目の内容について生徒に説明した。</p> <p>4 「観点別学習状況の評価」の内容や意義について再確認するため、国立教育政策研究所などの研修動画を活用して研修を行った。</p> <p>5 少人数である本校の特色を活かしてそれぞれの生徒の実態に応じ学び直しを含めた個別指導や習熟の差に応じたグループ別学習の実施などの指導方法の工夫・改善を進めている。</p>	<p>1 通信教育は12月末時点で2年生3名、1年生2名が受講。起立性調節障害などで、登校が叶わない生徒にとっては良い取り組みである。また、転学する生徒も減少し、生徒数の維持も実現している。次年度に向けて教育課程の一部を変更し、これからの教育活動の一層に充実に努める。(教務部)</p> <p>2 学習指導要領に示された原則を厳守しつつ柔軟かつ前例にとられない教育課程編成について、しっかりと議論を深め完成させたい。(教務部)</p> <p>3 教科内で「深い学び」について検討、模索することができ、益々授業改善への機運が一層醸成されていると感じる。また、生徒に授業評価の意図を説明することは効果的であり、漫然とした評価が減少した。(教務部)</p> <p>4 現行学習指導要領の完全実施以降の基本的な方針を再確認することで、それぞれの教員の授業を見直す契機となった。(教務部)</p> <p>5 対話的・協働的な学びは、多くの授業で取り入れられるようになってきているが、どのようなねらいでどのような力を身に付けさせたいのかをルーブリックを活用して生徒に明確にした上で、評価していくように改善を進めたい。(教頭)</p> <p>※ 「ルーブリック」学習のレポートや発表などの評価において、「何を(評価項目)」、「どのようなレベル(評価基準)」で達成できたかを示す評価表。キールブリックは、各学習活動で使用されるルーブリックの元になるもの。</p>
2	<p>生徒の多様化に対応する健康・安全教育や教育相談活動の充実</p> <p>能力・適性、興味・関心、性格が多様な生徒に対応するため、集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと、個々の生徒の個々の実態を踏まえて、それぞれが抱える個別の課題に対応した指導の双方の特性を踏まえた教育相談体制の充実に努めている。また、互いの個性や特性を認め合い尊重できる人間関係の構築に努めるため、対話的で協働的な活動を教育活動全体で実施し、安心して学ぶことができる環境づくりを進めている。</p>	<p>□自己管理能力の育成</p> <p>□自己肯定感の育成</p> <p>□他者理解力の育成</p> <p>□危機回避能力の育成</p>	<p>1 「いじめ防止基本方針」を改訂し、HPにアップするとともに、生徒にその概要について説明した。併せていじめに関する教員研修会を実施し、いじめの未然防止、早期発見・対応に努めている。</p> <p>2 コミュニケーションスキルを測定する生徒理解支援ツールである「ほっと」を複数回実施し、その結果を分析して生徒理解を深めている。また、授業の観察・評価の観点として活用し、生徒指導と一体となった授業づくりを目指している。</p> <p>3 SSW(スクールソーシャルワーカー)の来校日を事前に生徒、保護者にお知らせして、面談の機会の拡充に努め、教育相談の充実を図っている。</p> <p>4 相手を思いやる優しい気持ちを育てるために室蘭市人権擁護委員会と連携してデートDV(ドメスティック・バイオレンス)防止教室を開催している。また、ネットトラブルの未然防止と適切な使用を確認するため、ネットに関する講演会を室蘭警察署と連携して実施した。また、毎朝実施している「お祈りの時間」や教科「宗教」の時間をはじめとする多くの教育活動の中で、いのちの大切さや隣人愛などの心の教育の充実を図っている。</p>	<p>1 教員研修会により、教員間の意思疎通が図られ、問題行動があった時の連絡・対応が体系・明確化された。以後、対応が迅速に行われており、早期に解決できている。第2回いじめアンケートの結果も、重大事案、悪質、陰湿なケースはなかった。(生徒指導部)</p> <p>2 「ほっと」の有効活用を図るため、3月に「ほっと」の作成の中心となった大学教授を講師に招き、校内研修を実施することになっている。(教頭)</p> <p>3 SSWとの連携を密にし、月に2~3回定期的に実施するように改善した。SSWの来校日を生徒・保護者にブレンドを通じて行い、生徒・保護者の希望によって面談を実施している。12月までに、生徒・保護者・教員合せて12回の面談を実施した。また、担任や養護教諭が中心となって日常的な面談を通して生徒理解に努めている。(生徒指導部)</p> <p>4 デートDV防止教室については、今年度も1年生を対象に、人権擁護委員会から講師を招いて実施した。事後アンケートから、DVに対する意識が高まった。ネットトラブルの未然防止については、室蘭警察署の協力により、全校生徒を対象にSNSトラブル未然防止教室を実施した。また、長期休業前の全校集会では、生徒指導部長から毎回注意喚起している。朝のお祈りでは、各担当の教員が、さまざまなテーマで話し、その中で命の大切さや他者に対する思いやりの心について考える機会となっている。(生徒指導部)</p>
3	<p>育てたい資質・能力の育成</p> <p>言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力などすべての学習の基盤となる資質・能力や本校で重視している主体性・論理性、判断力・表現力、分析力、語彙力、課題発見力、他者理解力などの資質・能力を授業はもとより教育活動全体で身に付けるよう工夫・改善に努めている。また、これらの資質・能力を身に付けさせるためにChromebookをはじめとするICTを活用した指導方法の工夫・改善を進めている。</p>	<p>□主体性・論理性・判断力・表現力の育成</p> <p>□教科横断的指導の工夫</p> <p>□ICT活動の充実</p> <p>□コミュニケーション能力育成</p> <p>□国際理解教育活動や留学(語学研修)の充実</p>	<p>1 生徒による授業評価と教員相互の授業参観を踏まえた校内研修会を複数回実施し、組織的に授業改善が進むように工夫している。</p> <p>2 総合的な探究の時間の充実改善を進める中で、教員の中に各教科・科目やその他の教育活動の中心となっているという意識が定着してきている。また、総合的な探究の時間を核にして学年の枠を越えた交流学習が盛んに行われている。</p> <p>3 単元配列表の作成を進めるとともに、一部の教科でそれを活用して教科横断的な取組が進んでいる。</p> <p>4 今年度は1名の生徒がアメリカの姉妹校・提携校に長期留学している。また、姉妹校・提携校の学生5名をインターンとして本校で受け入れた。さらに室蘭の姉妹都市であるノックスビルへの語学研修に6名の生徒が参加する予定となっている。</p>	<p>1 授業評価と校内研修をリンクさせた授業改善の取組を進めてきたが、さらなる授業力の向上のために工夫改善を進めたい。また、「ほっと」のデータや面談を通して生徒の資質能力の向上の状況の把握に努めている。(教頭)</p> <p>2 探究のプロセス一つ一つについて、ルーブリックを作成し、探究活動全体を貫く評価の実現、また、他教科への横断を目指している。総合的な探究の時間と日頃の授業をどのように関連させるかという視点を今後も持ち続けることが肝要である。(教頭)</p> <p>3 変化が大きい現代社会で必要な資質を育成するためには、1教科だけの学習だけでは不十分なこともあり、計画的な教科横断の取り組みは、カリキュラムマネジメントの中でも重要だと考えられる。(教務部)</p> <p>4 長期留学や語学研修、海外姉妹校生徒の受け入れなど、国際理解教育の面では具体的かつ成果の見える取組が実現しており、目標達成に向けて一定の成果があったと評価できる。また、英語以外の韓国語講座を実施したほか、毎年放課後の時間を利用してスペイン語講座を開設している。今後は、育成した資質・能力を可視化・共有する評価方法のさらなる工夫に努めたい。(英語科)</p>

重点目標	内 容	具体的な取組	達成・取組状況	意見を踏まえた今後の取組
4	<p>3年間を見通した計画的な進路指導の充実</p> <p>卒業後の進路も多様であり、一人一人の進路目標に応じて個別に丁寧に指導・支援していく系統的な進路指導の充実が必要となっている。そのため、本校では、全教職員の共通理解のもと、総合的な探究の時間やホームルーム活動はもとより、日々の授業、学校行事、生徒会活動や部活動などすべての教育活動において人間の在り方生き方教育としてのキャリア教育の推進に努めている。また、これらの活動の過程や成果を記録化して生徒の成長が見える化するための研究を進めている。</p>	<p>□出口指導の充実 ・大学等の早期進路指導の充実 ・共通テスト受験指導（個別指導） ・就職に必要な知識と技能の習得</p> <p>□探究的な学びによる進路啓発 ・課題発見意識と課題解決力の育成</p>	<p>1 総合的な探究の時間を活用して、次のようなキャリア教育を全学年で系統的に展開し、思考力、判断力、表現力を高めている。 ・1学年では、大学教授から提示された課題を探究する探究型上級学校研究を実施している。 ・2学年では、企業から提示された課題を探究するキャリア探究学習を実施している。 ・3学年では、それまでの探究活動で身に付けたスキルを活用して、自らの進路や興味・関心に応じて探究する個人探究学習を行なっている。</p> <p>2 多角的な視点から自らの進路について考える機会とするため、進路に関する相談会を実施し、担任以外の教員が個別面談に当たっている。</p> <p>3 進路に向けた面接指導等は、学年団はもとより学校全体の教職員で生徒一人一人に応じたオーダーメイドの進路指導を進めている。</p>	<p>1 総合的な探究の時間を活用するために、総合的な探究の時間委員会を中心として3年間のカリキュラムを組み立てている。昨年度末に修正を加えて今年度実施したが、概ねねらいのとおり系統的に展開できた。全体のキー・ルーブリックをさらに改良することで、発展的に展開したい。（3学年） ・1学年では、探究の手法を学ぶ過程において、大学の先生を交えて課題に取り組むことで、より学問的な探究活動を図っている。 ・2学年では、地域とのつながりをもった実社会での探究を進めているが、実施から5年を迎えることから、これまでの成果と問題について受け入れ事業所と共有しながら、学習目標の達成に向けてよりよい活動へと再構築することを検討する。 ・3学年では、これまでの成果としての個人探究を、目的に応じたゼミ形式で実施した。進路活動と並行してより充実した活動になったと同時に、次の学年へと継承していくことを課題として振り返りを行う必要がある。</p> <p>2 進路相談会を通して、担任以外の教員が個別面談を行う体制を整えることで、生徒が多角的な視点から自らの進路について考える機会を確保することができた。教員間で生徒理解を共有することで、進路観や課題をより立体的に把握する取組が進んだ。一方で、相談内容や気付きがその後の指導に十分に継続・反映されるよう、記録方法や情報共有の在り方について、さらなる工夫が必要である。（進路指導部）</p> <p>3 進路に向けた面接指導について、学年団にとどまらず学校全体で生徒一人一人に応じたオーダーメイド型の指導体制を構築することができた。大学進学、就職など多様な進路に対応した個別支援が行われ、生徒の主体的な進路選択を後押しする取組が進展した。これからも、進路指導部が中心となり、教員の共通理解を深め、指導の過程や成果を体系的に蓄積・可視化し、3年間を見通した進路指導として一層の質的向上を図る必要がある。（進路指導部）</p>
5	<p>地域や保護者との連携を重視した教育活動の充実</p> <p>生徒の資質・能力の育成に向け、保護者からの協力を得つつ、地域の教育資源を活用した教育活動の充実が求められている。学校や家庭はもとより、社会の様々な世代の多様な人々と関わることは、働くことや社会参画の意味や意義についての理解を深め、地域を担う人材の育成につながる重要な教育活動と考えている。そのため、本校では、地域と連携したキャリア教育の取組を進めている。</p>	<p>□学校理解の促進 □PTAの学校行事への参加 □ボランティア活動の充実</p>	<p>1 世界寺子屋運動をはじめとするユネスコスクールとしての活動のほか、雪かきボランティア、地域清掃活動など地域と連携した活動に生徒が主体的に取組を進めている。</p> <p>2 国際ソプロチミストアメリカ日本北リジョンS I 室蘭のSクラブと連携した地域社会で活躍している女性の講師による講演会を通して、現代社会で求められる資質・能力について理解を深めるとともに、様々な視点から自分の進路設計について考える機会をつくっている。</p> <p>3 室蘭、登別の両市経済部局や商工会議所と連携して、キャリア探究学習の充実発展に指導・助言をいただいている。</p> <p>4 本校の教育活動に対する保護者の理解を深めるために、次のようなPTAと連携した取組を進めている。 ・PTA総会前に授業参観を実施し、多くの保護者が授業参観と総会に参加した。 ・校内美化活動の一環としてPTAと快晴農園部がコラボして校舎玄関前のプランター整備を行った。 ・PTA役員が主体となって、多くの保護者の参画を得て、学院祭のバザーと露店を運営した。</p>	<p>1 諸団体と連携して用意した活動ごとにBLENDを通じて参加希望者を募り、参加生徒は活動を通じて学びや気づきをポートフォリオにまとめ、自身の進路活動に活用している。これからも実施前に活動のねらいの共通理解を図るほか、実施後に達成状況の把握に努めていく。（ESD）</p> <p>2 1と同様、ポートフォリオの取りまとめについて検討を進める。（ESD）</p> <p>3 室蘭商工会議所が設立した「キャリア教育センター」との連携を図り、地域に愛着を持った生徒の育成に一層努める。（教頭）</p> <p>4 生徒たちの学校生活を保護者が知ることのできる良い機会となっている。特に、学院祭では保護者から、生徒たちの楽しんでいる様子を見ることができ、参加してよかったとの声が多く挙がった。また、学年問わず交流できることで、教育活動に対する保護者の理解がより一層深まっていると感じる。 今後、学校行事等の保護者への公開について、PTAとの連携して進めていきたい。（PTA担当）</p>
6	<p>生徒確保のための工夫改善</p> <p>入学者数を安定的に確保するには、本校の特色や教育の質を一層高めることが求められる。また、特色ある教育活動を明確にわかりやすく地域や中学生に伝わる形で発信していく必要がある。加えて、生徒一人一人の学びの質を高め、個々の可能性を最大限に引き出す教育環境の整備と、「地域に根ざし、地域に貢献し、地域に愛される学校づくり」を進めていくことが必要である。</p>	<p>□国の動静に積極的に対応 □地域・中学生に「魅力ある学校」の検証 □教育無償化に伴う授業の質保障 □PTAとの連携</p>	<p>1 オープンスクールにおいて、本校の授業や学校生活について中学生やその保護者に生徒が主体となって説明するなど本校の魅力を存分に伝えることができるよう工夫した取組を進めている。また、本校の教育活動や特色ある取り組みについてホームページやSNSを活用して発信している。</p> <p>2 中学校の教員を対象にした入試説明会を実施し、その際に授業も参観して生徒の様子を見てもらうなど、本校の特色ある教育活動について理解していただく機会としている。</p> <p>3 教育無償化を中心とする国の教育政策の動向を的確に把握し、入試制度の工夫改善を進めている。また、教育無償化によって求められる授業の質の確保・向上を図るため、教職員の指導力向上と教育課程の一層の工夫改善に努めている。</p>	<p>1 オープンスクールでは、生徒が主体となって授業や学校生活を紹介する取組を行い、本校の特色や魅力を直接伝える工夫を進めることができた。一方で、実施回数や開催時期については、中学生や保護者のニーズや進路選択の時期と必ずしも十分に合致しているとは言えず、参加機会の確保という点で課題が残った。今後は、オープンスクールの回数や時期を再検討し、より多くの中学生に本校の魅力が伝わるよう、計画的な実施と広報の工夫が必要である。また、保護者向けの説明では特色ある教育課程について説明しているが、具体的な事例を挙げて理解を深められるよう工夫に努める。（入試広報部）</p> <p>2 中学校教員を対象とした入試説明会を実施し、授業参観を通して本校の教育内容や生徒の学びの様子を直接見ていただくことができた。これにより、本校の教育の特色や指導方針について理解を深めてもらうなど、概ね順調に取組を進めることができていく。今後は、こうした取組を継続しつつ、情報提供の充実を図ることで、中学校との連携をさらに安定的なものとしていく。（入試広報部）</p> <p>3 教育無償化が決定した場合には、奨学生を含めた入試制度の再検討を行う。また、教育の質の確保を図るためには、授業力向上の研修はもとより、単位制や通信教育の導入など新しい制度に合せた教育課程の工夫・改善を進めていく。（教頭）</p>